

# MAGiC HOUR

2025

12

「好奇心」つながれ!!



巻頭特集

## 地域とつながる

Cover

岸川 夢羽 / 伊藤 碧泉  
大里 美空 / 松元 悠晴

連載

世界とつながる  
未来とつながる

## 03 Cover Voices

ステージの裏にもドラマがある！  
街なか学園祭で輝いた生徒たちの声

## 04 巻頭特集 地域とつながる

笑顔と熱気に包まれた街なか学園祭 あの感動をもう一度



## 06 連載 世界とつながる

＼世界に5ヶ国、9校の協定校／  
みんなにチャンスが開かれている！飯塚高校の交換留学  
ニュージーランド、タイ、韓国への留学経験者3名にインタビュー



## 07 連載 未来とつながる

国公立大学・難関私立大学・海外大学への進学を叶える  
卒業生2名が振り返る、「主体的に考え、行動して学ぶ」教育の仕組み  
大島 奏穂さん(九州大学 共創学部 2年生)  
大熊 敦地さん(立命館アジア太平洋大学(APU) 国際経営学部 1年生)

## 09 Key Player Interviews

大学、大学院、社会で活躍する卒業生3人が登場  
安藤真清さん(熊本大学 工学部 4年生)  
山本貴子さん(シェフィールド大学大学院 教育学 修士課程 在学中)  
蛸川涉さん(九州工業大学大学院 情報工学府 修士課程 修了  
ケーサイト・テクノロジー所属)



## 10 Events Calendar

春を迎えるカウントダウン  
飯塚高校の1～3月のイベントカレンダー

## 11 Information



岸川 夢羽さん  
学園祭実行委員長 3年生

実行委員長とクラス企画のリーダーというふたつの役割を務めました。準備段階では意見をまとめるのに苦労したり、当日には小さなトラブルも発生したりと、いろいろな出来事がありました。ただ、その都度状況に応じて判断し、周りと協力しながら動ける力が身についたと感じています。ひとりで抱え込まずに、周りに頼ることの大切さも気づけました。

また、商店街での活動を通じて、地域の方々の思いや要望を直接知ることができ、それを企画に反映した際に「よかったよ」と声をかけてもらえたことは大きな励みになりました。商店街という場所で、高校生と地域、特にシルバー世代をつなぐ役割を担えたことは、とても貴重な経験です。今回の学園祭で得た学びを糧に、卒業後もさまざまな活動に挑戦していきたいと思っています。



伊藤 碧泉さん  
学園祭副実行委員長 2年生

今回初めて副実行委員長として学園祭の準備に携わりました。1ヶ月前から話し合いを重ね、みんなと協力しながら段取りよく準備を進められたことが、自分にとって最も大きな成長だと感じています。飯塚市出身ではありませんが、商店街で活動する機会はほとんどなかったため、学園祭を通じて小さなお子さんから大人の方まで幅広い世代の方と交流できたことは、とても新鮮でうれしい経験でした。

実行委員会は大変そうなイメージがありましたが、取り組んでみると想像以上に楽しく、やりがいを感じるシーンがたくさんありました。来年もまたチャンスがあれば挑戦し、さらに最高の学園祭づくりに貢献したいと思っています。

飯塚高校では「Global(グローバル)・Local(地域)・Individual(個性)」の3本柱を教育目標としています。

教室ではなかなか得られない「地域と関わり、実践する力」を育む場として、

商店街を舞台にした「街なか学園祭」を2022年から展開しています。

生徒たちは地域の方々(企業、個人、組織)と協力しながら模擬店や展示を企画・運営し、

教室の外での実践を通じて、変化の時代を生き抜き、未来を切り拓く力を培います。

商店街の活気の中で学び、挑戦し、楽しんだ1日。

ここでは、当日の出店や活動を通じて感じた学びや喜びを、生徒たち一人ひとりの言葉で紹介します。

※取材・撮影は「街なか学園祭2025」当日の2025年11月22日に実施しました



大里 美空さん  
学園祭副実行委員長 2年生

今年度は副実行委員長として、学園祭の準備段階から深く関わりました。責任のある立場に立つことで視野も広がったと思います。

また、個人としては所属する保育同好会でミニゲームを出店しました。もともと絵や工作が得意ではありませんでしたが、準備を重ねるうちに少しずつ上達していくのが分かり、自分でも成長を実感しました。

地域との関わりでは、商店街の皆さんが本当に優しく、関わりやすい方ばかりだったことが印象に残っています。普段接する機会がありませんので、地域との距離が縮まるよいきっかけになりました。

副実行委員長としての経験は大変なこともありましたが、それ以上に得られるものが多く、挑戦してよかったと思っています。来年は実行委員長にも挑戦したい、という目標もできました。



松元 悠晴さん  
システム開発担当 2年生

学園祭ではPOSシステムの開発を担当しました。開発を進める過程で、プログラミングやデザインの知識が形になっていき、自分のスキルが確実に高まっていくを実感できたことが最も大きな成長でした。

今年度は学校全体の約半数のクラスがそのPOSシステムを導入してくれました。多くのクラスに使われたことで、改善すべき点や必要な機能も見えてきたと感じています。

来年は全クラスでの導入を目指しています。今年収集したデータを仕入れ数などの判断材料として活用できるよう、さらに使いやすい仕組みへと改善していきたいと考えています。

# 地域とつながる



夏のインターハイで2度目の全国大会出場を果たし、チーム史上初の全国ベスト8入りを達成したサッカー部



地域の方に支えられ、来場者からも感動される本格的な出店を誇る生徒たち



関西大学 法学部 坂本研究室とコラボしたまちLaboは、一部を寄付付き商品として販売



ダンス部が先導する全国大会出場の生徒たちによるパレード



1・8の本格的なお化け屋敷は大盛況



ソラホムマ手をお客ごきでいっぱいした吹奏楽部の演奏



NZ・ワイスイオマタ高校(協定校)よりいただいたオリジナル「ハカ」を披露

2025年11月22日(土)、「街なか学園祭2025」が開催されました。4年目となる今年は飯塚市の後援もあり、地域全体を巻き込んだこれまでで最大規模のイベントに。会場となった飯塚市の商店街(本町商店街・東町商店街)は笑顔と活気であふれ、過去最多の来場者でにぎわいました。地域の方々の温かな支えを受けながら、生徒たちは出店の企画から装飾、運営までを自分たちの手でつくり上げました。準備期間の試行錯誤も、仲間と笑い合った瞬間も、すべてがかけがえのない学びに。この日の感動をたくさんの写真とともにお届けします。――次はあなたが、飯塚高校で、そしてこのまちで「最高の1日」をつくる番です。

学園祭  
特集ページ



※取材・撮影は街なか学園祭当日に行いました。



パレード後、商店街に集まった都大路出場を決めた駅伝部



よしもと福岡所属芸人・卒業生・在校生によるトークセッション



飯塚市シルバー人材センター  
とコラボしてたこ焼きを  
販売した1・2

地域の方を笑顔で接客



全国大会優勝経験を持つバントワラー部



### 森 彩音さん

飯塚高校卒業生・福岡大学 商学部 高専科3年・飛田ゼミ所属

高校生たちが4回の福大連携授業を通じて学んだ会計やオペレーションを自ら組み立て、実践していた姿に成長を感じました。当日は地域の方に積極的な声をかけ、大きな声で感謝を伝える姿が商店街に活気を生み、街なか学園祭ならではの光景だと強く感じました。



### 山上 紀彦さん

飯塚市シルバー人材センター 常務理事

生徒たちが学園祭に備れ、積極的に関わる姿勢がより感じられるようになり、社会性が育つていると感じました。また、若い世代が商店街一気に集まる光景は、街なか学園祭ならではのもの。この取り組みを点ではなく線として継続していただけるまことにしたいです。



### 山本 剛司さん

マソラホンマチ運営・飯塚市タウンマネージャー

地域の方とやりとりしながら、自ら段取りを考えて主体的に動く生徒たちの姿に、大きな成長を感じました。裏方として4年間やってきたなかで確信しているのは、学校の中だけでは得られないこの経験が、卒業後の行動力へ確実につながっているということです。



### 山中 大輔さん

筑豊クラフト代表・本町商店街振興組合 理事

生徒たちが主体性を持って動き、地域で活動する意味を理解している姿に、意識の高さを感じました。「まちを盛り上げたい」「地域の産物を使いたい」と明確なテーマを持って取り組む学園祭は祭の枠を超え、まちづくりそのものだと感じられます。



### 三好 宏輔さん

みよしスポーツ代表取締役・本町商店街振興組合 副理事長

昨年関わった生徒たちが、今年は自ら率先して動くようになり、その成長ぶりに驚かされました。また今年も子ども連れのご家族が多く訪れ、世代の商店街とはまったく異なる客層が集まったことで、商店街の認知度向上にもつながっていると実感しています。



### 元野木 正比古さん

元野木書店代表取締役・飯塚市タウンマネージャー

生徒たちが地域課題に気づき、「トイレを増やすにはどうすればいいか」と資金集めやアイデアまで考え始めた姿に感動しました。場所の貸し借りという関係を超え、商店街や地域の人々と丁寧に連携しながらイベントをつくりあげていく様子は本当にうれしい光景でした。



### 下原 健司さん

飯塚商工会議所 商工振興課

4回目を迎えた今年は、生徒たちに落ち着きと余裕が生まれ、過去最多の来場者にも丁寧に対応する姿に成長を感じました。飯塚高校生たちの活躍を知る地域の方々の期待に応えながらイベントを盛り上げていく様子は、この学園祭ならではの光景だと実感しています。



### 小池 博さん

近畿大学 産業界工学部 建築・デザイン学科 教授

2022年から学園祭の空間デザインに携わるなかで、生徒たちが答えのない課題に向き合い、自ら考えて意見を出せるようになった姿に成長を感じます。4回目を迎えた今年の学園祭は、「フェス」のような広がりを感じられるイベントへと進化した印象を受けました。

## 街なか学園祭アンケート《街なか学園祭で得たものは？》

- 👑 1位 思い出(81.0%)
- 👑 2位 仲間との絆(71.2%)
- 👑 3位 経験や知識(53.9%)
- 👑 4位 お金(売上)(34.9%)
- 👑 5位 地域や企業など外部とのつながり(31.4%)
- 👑 6位 街の活気(23.6%)

学園祭は主にクラスで力を合わせて取り組む行事であるため、仲間とのチームワークの中で生まれる思い出や絆が上位に並ぶ結果となりました。同時に、商店街との協働や地域の方々との接点を通じて、街とともに学園祭をつくり上げる実感を得ていたこともうかがえます。商店街で開催する本校ならではの学園祭が、地域全体を盛り上げる力になっていると感じた生徒が多かったことがわかります。  
※このアンケートは複数回答方式で実施しました。

## みんなにチャンスが開かれている！飯塚高校の交換留学

飯塚高校では、世界5ヶ国9校との交換留学制度を整えています。入学間もない1年生から挑戦でき、条件を満たせば費用は主に往復航空券代のみ。「挑戦したい人」であれば誰にでも開かれたチャンスがあります。

ニュージーランド(以下、NZ)・ランギオラハイスクール、タイ・IBSインターキッズ・バイリンガルスクール、韓国・釜山観光高校への交換留学をした3名の生徒にインタビューしました。

もっと詳しい  
インタビュー  
を読む



※記事内容は取材当時  
(2025年3月・10月・11月)  
のものです。



田中 凛さん  
国際探究プロジェクト1年生  
(特進グローバルコース)

### 「伝えたい気持ちがあれば伝わる」

### 気づいて行動できるようになったNZ留学

幼稚園のときに、NZから来た留学生と交流したことがきっかけで、「いつか行ってみたい」と憧れるようになりました。入学後に留学募集の案内を見て、「このチャンスを生かしたい」と思い、迷わず挑戦を決めました。家族で海外に行ったこともなかったので不安もありましたが、それ以上にワクワクが大きかったです。

NZは想像していた以上に自然豊かで、街中にも木が多く、空気がとてもきれいで、ホームステイ先の家では馬を5頭飼っていて、動物が身近にいる生活がとても新鮮でした。学校は自由な雰囲気、髪を染めている人も多く、授業中の飲食もOK。授業では、学校のカメラで屋外撮影をする写真の授業が特に印象に残っています。日本の学校との違いを知ったのは新鮮でした。最初は英語が通じず苦労しましたが、単語やジェスチャーを使って「伝えよう」とすれば伝わることを実感しました。空港での移動や道を尋ねるときなど、自分から行動するうちに「やってみればなんでもかかると」思えるようになり、勇気を出して話すことができるようになりました。

この留学を通して「知らない場所でも自分はやっていける」と思えて、どんな環境でも前向きに動けるようになりました。これからもいろいろな国に行って、たくさんの文化や人に触れてみたいです。もし留学を迷っている人がいたら、思い切って挑戦してみてください。きっと「自分もできた」という実感につながるはずです。



三明 勇斗さん  
国際探究プロジェクト3年生  
(特進グローバルコース)

### 自分にあるものをフル活用すれば、言語交流を通して成長できる

2025年1月、タイに交換留学しました。1~2年生計7名での参加で、先生の引率がない初の挑戦に最初は不安もありましたが、以前ベトナム留学を経験していたため、リーダーとして皆を支えるつもりで臨みました。歓迎セレモニーではダンスを披露し、体育祭の練習や伝統楽器演奏、トムヤムクン調理、ムエタイ練習などタイならではの活動を体験。学校の売店で友人とアイスを買ったり、朝のゲームで笑い合ったりと、日常の小さな出来事も大事な思い出です。ホストファミリーとは外食を楽しみ、寺院見学やポート体験もしました。英語での会話を中心に、ジェスチャーや表情で伝える工夫を重ねるうちに、相手の言葉も少しずつ理解できるようになりました。発音の違いに苦労したことから、多様な英語に触れる大切さを学びました。

帰国後は私がホストファミリーとして留学生を迎える側に。個室を用意し、観光や誕生日祝いなど日本での時間を楽しんでもらえるよう工夫しました。笑顔でやさしく接したことで、言語を超えて心が通じる喜びを感じました。飯塚高校の交換留学は、英語力に自信がなくても挑戦でき、費用も抑えられます。自分の持つ力を最大限に生かせば、必ず新しい発見と成長がある。この経験を通して、世界の人々につながる楽しさを強く実感しました。



小林 由奈さん  
国際探究プロジェクト1年生  
(特進グローバルコース)

### 韓国での経験が、新たな挑戦の原動力に

韓国・釜山観光高校へ短期交換留学に参加しました。最初は言葉の壁が一番の不安でしたが、「伝えたい」という気持ちを忘れずに話しかけていきました。その過程で「完璧でなくても思いは届く」という実感が、自信になっていきました。現地の授業では、観光や調理など専門的な内容にも触れました。なかでも印象に残っているのはバリスタ体験。家族がコーヒー好きなので、学んだことを家で実践するととても喜んでくれて、「自分の学びが人を笑顔にできるんだ」と感じた瞬間でした。

帰国後は、釜山観光高校の生徒をバディとして受け入れる側に。自分が留学中に受けた温かいやりとりを思い出して、「できるだけ自由に過ごしてもらえるように」と心がけました。福岡・天神や神社を案内したり、友人たちを含めて過ごしたり。一緒に笑い合えた時間は、今でも宝物です。この経験を通じて、もっと世界を知りたいという思いが強くなりました。次はタイに行ってみようと思います。人の優しさや文化に触れ、さらに自分を成長させたいと思っています。これから挑戦する皆さんに伝えたいのは、「やってみよう」という気持ちに素直に動いてほしいということ。飯塚高校なら手厚いサポートのもと安心して世界に踏み出せます。その先で可能性を広げてほしいと思います。

飯塚高校の教育目標「GLI(Global・Local・Individual)」は、教室の外へ飛び出し、地域・社会・世界と関わりながら学ぶことを重視しています。その核にあるのは「主体的に考え、行動すること」。ひとつの領域を深める生徒もいれば、複数の領域に挑戦して自らの可能性を広げる生徒もいます。行動から得た経験は志望理由書に厚みを生み、大学側に「この生徒を迎えたい」と感じさせます。

九州大学や立命館アジア太平洋大学(以下、APU)をはじめ、難関大学に総合型選抜で合格した多くの卒業生たち。入試を突破する力だけでなく、自ら問いを立てて課題を見つけ、仲間と協働して行動できる人材へと成長した彼らが、在学中にどんな活動をしてきたのかを振り返ります。GLI教育は自ら未来を切り拓く力を育てています。



※記事内の大学名や学年は刊行時(2025年12月)のもです。

## Global



大島 奏穂さん

九州大学 共創学部 2年生

大島奏穂さん(九州大学 共創学部 2年生)は、吹奏楽での地域活動を通して培った「多様な人々とつながる力」を国際的な舞台へと広げました。協定校からの留学生を迎える際には、音楽を通して飯塚高校の魅力を伝えるウェルカムコンサートを企画。演奏を通じて異文化と交流する機会をつくり出しました。2023年には韓国遠征に参加し、現地での演奏を通して国境を越えたつながりの力を実感。その経験が地域での演奏活動にも新たな視点をもたらし、「共創」というテーマで学びを深めたいという志へとつながっています。

九大の志望理由書では学力だけでなく、オリジナリティの高い経験で勝負。3歳から高校卒業まで続けてきた多様な地域活動に加え、海外にも挑戦の場を広げたことを具体的に伝え、「主体性と継続性」を軸に自分の歩みを表現しました。こうした唯一無二の経験と行動力が、高く評価されたのだと感じています。

## Local

吹奏楽部の部長として、飯塚本町商店街での演奏会や街なか学園祭での演奏を企画・運営してきた大島さん。音楽を通して地域の人々と交流し、まちを盛り上げる活動に力を注ぎました。地域で温かなつながりを広げていった実績は、総合型選抜でも高く評価されることに。

大熊敦地さん(APU 国際経営学部 国際経営学科 1年生)は生徒会長として、地元農家と協働し、規格外野菜を活用した新商品販売プロジェクトを主導しました。廃棄される規格外野菜と商店街の空き店舗という社会課題を組み合わせ、食品ロス削減と地域活性を両立させる企画を立案。新商品を開発して販売まで実現し、複数回にわたり活動を継続しました。この経験は大きな自信と達成感につながりました。

商店街で商品を販売していると、「この取り組み、高校生がやっているの?」と驚きの声をいただくこともしばしば。地元農家やJAなどとの新たな結びつきも生まれ、活動の輪が広がっていました。さらに、福岡市での献血活動をきっかけに出店の声がかかるなど、エリアを越えた反響もありました。こうした取り組みを通じて自ら考え行動する姿勢を磨き、主体性を重んじるAPUに高く評価され、合格を勝ち取ったのです。



大熊 敦地さん

APU 国際経営学部  
国際経営学科 1年生

## Individual

生徒会長として活躍し、「人をまとめ、仕組みをつくる」リーダーシップを磨いた大熊さん。学内向けの活動として、生徒から要望の多かった校則の見直しに取り組み、髪型に関するアンケートを実施。次期生徒会に引き継ぐためのデータを収集し、生徒の意見を反映できる仕組みづくりに挑戦しました。

任期中に大きな変更こそ叶わなかったものの、生徒主体で学校を変えるための礎を築きました。また、20人を超える多様なメンバーをまとめる立場として「役割分担」「熱意の共有」「否定しない姿勢」の3つを大切にしました。人と話すのが得意な人、裏方で支える人——それぞれの強みを見極めて生かす采配を心がけたことで、チーム全体の力を引き出すことに成功。こうして培ったリーダーシップと人を動かす力は、APUの総合型選抜でも高く評価されました。

# Key Player Interviews



もっと詳しい  
インタビュー  
を読む



※記事内容は取材当時  
(2025年10月)のものです。

飯塚高校では、生徒一人ひとりが自分の未来を切り拓く力を育てています。希望の進路を実現した現役大学生と大学院生、社会人の先輩たちに、現在と未来のこと、そして飯塚高校で過ごした過去のエピソードについてお話を伺いました。



熊本大学

工学部情報電気工学科4年  
26年4月より大学院進学

※熊本大学大学院・九州大学大学院  
合格を果たし、進学先を検討中

## 安藤 真清さん 特進I類(現 特進アカデミックコース) 2022年3月卒業

現在はCERN(欧州合同素粒子原子核研究機構)の大型実験機器に搭載するためのコンピュータシステム開発に取り組んでいます。英語の論文を読み、海外の研究者と一緒に議論するなど、国際的な研究の現場を意識しながら日々学んでいます。

大学院に進もうと決めたのは、3年次に参加した企業でのインターンシップがきっかけでした。そこで出会った先輩方が、修士課程で磨いた研究力をそのまま仕事に生かしている姿を見て、自分ももっと力をつけてから社会に出たいと思うようになったんです。学部4年から研究室に所属しますが、1年間だけでは成果を深めきれないとも感じていました。大学院で2年間研究に打ち込むことで、社会でより大きく貢献できる人材になりたいと考えています。

その土台には飯塚高校での経験があります。吹奏楽部の部長として、どうすればチームの力を底上げできるか、一人ひとりに寄り添って練習を重ねました。結果的に数年ぶりの九州大会出場につながり、行動によって現実も変えられるという実感を得ました。

また、顧問の畑中先生から「やるなら一番を目指せ」と言われたことも大きな転機です。勉強に対して受け身だった自分が、本気で努力する姿勢を身につけられたのはその言葉のおかげでした。今でも『自分が変われば現実も変わる』という考え方が、自分の研究や進路選択の指針になっています。

## 山本 貴子さん 特進I類(現 特進アカデミックコース) 2020年3月卒業

大学では英語コミュニケーションを専攻し、英語の中学校・高等学校教諭一種免許状(教員免許)を取得しました。教職課程は想像以上にハードでしたが、英語学や異文化理解など多くの科目を学ぶ中で、自分がどんな教師を目指したいのかを考えるきっかけになりました。在学中はイギリスのセントラル・ランカシャー大学へ1年間の交換留学にも挑戦。留学したい学生を全力で応援してくれる大学の雰囲気や背中を押され、異文化の中で自分の考えを表現し、行動する力を身につけました。

2025年9月からはイギリスのシェフィールド大学大学院 教育学(修士課程)で学んでいます。選択科目では『言語習得』について学び、どんな生徒にどんな方法で言語を教えるのが効果的か、どのようなアクティビティが学びを深めるかを、さまざまな国の学生と議論しています。異なる教育観や文化背景を持つ仲間との対話を通して、自分の考えをより深く磨き、教育のあり方を多角的に捉える力が養われていると感じます。卒業後は現場でこの経験を生かし、英語教育に限らず、人の成長を支える仕事に携わっていきたいと考えています。

飯塚高校では、先生方が生徒一人ひとりを丁寧に見てくださる環境の中で、主体的に学び、行動する力を高めることができました。やりたいことを決めるとき、全力でサポートしてくれる先生方の存在があったからこそ、今の私があります。



シェフィールド大学大学院  
教育学 修士課程 在学中



九州工業大学大学院  
情報工学府 修士課程 修士  
キーサイト・テクノロジー所属

## 蛭川 渉さん 特進II類(現 特進グローバル・探究実践コース) 2018年3月卒業

九州工業大学情報工学部では情報×機械をテーマに学びました。構造を設計し、半導体プロセスを用いて作製したMEMS(微小電気機械システム)と呼ばれる数ナノ、数マイクロほどの世界を扱う研究に取り組み、肉眼で見えないものを形にする奥深さに魅了されました。大学院では研究に加え、後輩の指導も経験。教える立場になることで自分の理解を深め、自ら課題を見つけて動く力や、学びを主体的に掘り下げる姿勢を身につけました。

現在はキーサイト・テクノロジーの日本法人で半導体計測装置のマーケティングエンジニアを担当しています。学びで得た知見を生かし、営業や開発チームと協働しながら、お客様の課題に最適な技術を提案する「技術の翻訳者」のような役割です。海外エンジニアとの英語でのやりとりもあり、チャレンジングな日々を送っています。

挑戦を恐れない姿勢の原点は飯塚高校にあります。サッカー部では結果が出ず苦しい時期もありましたが、全国から集まった仲間たちが本気で努力する姿を見て、「本気で努力する人には勝てない。だから自分も本気でやるしかない」と強く学びました。中辻喜敬監督のもとで「自分に恥じない行動をする」という信念を持たせたことも、今の自分を支える大きな軸になっています。特進コースで学ぶ中で、親身に数学を教えてくださいました先生の存在にも支えられました。仲間と監督、先生方と過ごした3年間が、挑み続ける私の礎になっています。

# 飯塚高校2026年(2025年度) イベントカレンダー



	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
1  January 2026	28	29	30	31	1	2	3
	4	5	6	7 冬期休業 (12月20日~)	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20 ノーチャイムデイ	21	22	23	24
	25	26	27 専願・推薦・ 国際入試	28	29	30 専願・推薦・ 国際入試合格発表	31

	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
2  February 2026	1	2	3	4	5	6 一般入試	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17 一般入試合格発表	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28

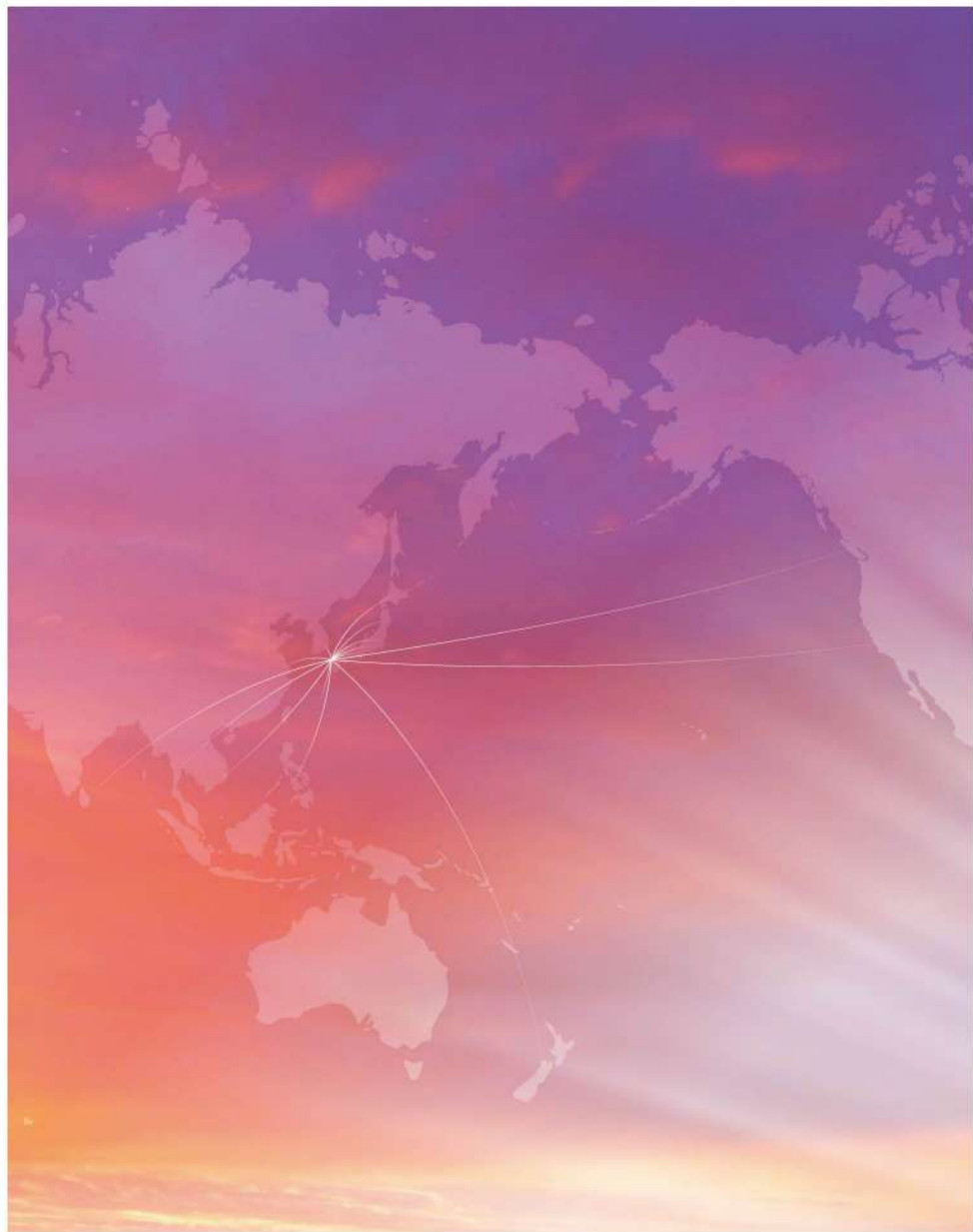
	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
3  March 2026	1 卒業式	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18 修了式	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31	1	2	3	4

先輩たちの声や部活動の様子から、飯塚高校で過ごす  
「これからの自分」をイメージしてみよう。  
パンフレットだけでは伝えきれない、飯塚高校のリアル  
なスクールライフはこちらから！

部活動・  
スクールライフページ







The story of  
**IIZUKA HIGH SCHOOL**  
*to be continued*

